

平成26年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	ハイキングマップの作成及びモバイルの貸し出しについて	市内ハイキングコースのマップを作成し、目標物を掲載することにより、ハイカーの負傷事案や所在地不明事案の出動時の目標物にする。	阪急電鉄及び阪急沿線各市との連携により、観光あるきマップを平成28年4月発行作成し、中山寺の山歩きコースや巡礼道コースなどを掲載した。 廃線敷ルートは平成28年11月に整備が完了し、それに合わせてマップを作成した。
2	宝塚市のキャッチフレーズ・ロゴデザインの制作について	宝塚市の魅力を見つけ、自信と愛着を持って全国に宝塚の良さを発信するため、市民の皆さんと協働して、ロゴ・デザインを製作し、市の印刷物やイベントなどに積極的に活用する。	「ときめく日々がたからもの」のキャッチフレーズとデザイン(H29年度)
3	市内イベントのfacebookでのPRについて	facebookの活用は、現在は実施報告を主にしているため、これから行うイベントや取り組みについての記事も掲載する。	市facebookにおいて実施している。 また令和元年12月からLINEを活用してイベントや災害等についての情報発信を実施している。
4	大学との連携による児童参加型事業について	市内にある宝塚大学や甲子園大学と連携し、児童参加型の事業を行う。	子ども委員会の学生サポーターとして、大阪人間科学大学ほかこれまでに複数の大学の学生に協力いただいている。
5	<最優秀賞> カラーテープによる窓口までの順路の表示について	本庁G階と1階から担当窓口までの順路をカラーテープにより表示し誘導する。また入り口には、案内板を設置する。	他市への視察や研修に参加し、検討を進めてきた。 事業者とも検討を行い、材質、施工方法について協議を行っているが、新庁舎・ひろば建設事業の進捗を見ながら行っている。 また、平成31年4月からは市役所内駐車場が移設され、市庁舎への動線が変わったことや、新庁舎の建築内容も変更されることも視野に、引き続き検討を進めるとともに、工事期間中は手作りの案内板等を活用して庁舎案内に努める。

平成27年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<優秀賞> 集まろう！にしたにライダー！	西谷夢プラザを拠点とし、バイクスタンドの設置、サイクリングコースの整備、休憩ポイントの設置、レンタサイクルの実施、西谷産の米を使用したおにぎりの販売等によりライダーを集める。	平成28年度に創設した、バイクスタンド設置補助を活用して、西谷地域に5ヶ所の休憩スポットが開設された。 平成29年度は、北摂里山博物館運営協議会と連携して、北摂の里山を中心としたサイクリングマップを作成し、市役所や西谷夢プラザ等で配布を行った。
2	西谷をサイクリストの聖地に	西谷ふれあい夢プラザ、宝塚サービスエリア等にバイクスタンドを設置する。	上記1と同様
3	西谷花のみち構想	廃線跡沿いにスミレとダリアを植え花のみちをつくる。また一般道路沿いにも、花を植えスマートインターから西谷に降りる道から花のみちを作る。	平成28年度に花の里・西谷活動事業補助を創設。下記の事業に対する補助を実施した。事業の自主性・継続性がみられてきたことを踏まえ、補助制度は平成30年度を最後に終了した。 ※補助実績 ・平成28年度：ごろく山里における植栽及び「西谷花の里・桜まつり」の開催 ・平成29年度：県道沿い敷地におけるダリアの植栽 ・平成30年度：宝塚北スマートIC付近におけるササバザクラの植樹
4	封筒への「階」の記載	各課において使用している封筒に課名だけでなく「階」を記載する。	平成28年6月に会計課宛てに依頼し、デザインの変更を行った。
5	<市長特別賞> 市役所食堂で学校給食を提供	市役所で給食を提供することにより、マスコミに取り上げられ、市内及び全国から興味を持った方が集まり、職員の意識も対外的になりおもてなし力アップにつながる。	平成31年3月の毎週水曜日に、クックパッドに掲載中の本市学校給食レシピを参考にした「汁物」や「副菜」を日替わりランチで提供した。
6	<市長特別賞> 宝塚市職員の事務事業等の応援に関する規程の作成	宝塚市職員の事務事業等の応援に関する規程(案)を作成する。	庁内的に、運用上その仕組みが確立しており、その必要性が認められないため、規定の策定は行わないが、今後も柔軟な組織の管理の取組において対応していく。
7	新名神高速道路開通前の自転車レースの開催	各地で行われている開通前の高速道路を自転車等で走るといったイベントを新名神高速道路の開通に合わせて行う。	新名神高速道路建設現場での事故に伴い、高槻～川西が先行して部分開通したことにより、開通区間が自転車レースを行うのに十分な距離をとれないことから、提案事業の実施には至らなかった。 代替として全線開通日(平成30年3月18日)に、高速道路本線をウォーキングするイベントを開催し、サービスエリア、スマートインターチェンジの開通をPRした。
8	挨拶強化月間の実施	年に一度、挨拶強化月間を設け、市役所全体で取り組む。	挨拶強化月間は設定しなかったが、総括課長会議で挨拶の励行について周知を図り、各課で取組を行った。

平成28年度企画提案

No	題 名	概 要	実現状況
1	<市長特別賞> すみれ墓苑の売り方について	高齢者の利用の多い部門においてセミナーを実施するなど、部・課をまたいだPR活動や公園として整備することにより子供連れが来やすい場所として整備する。	平成28年度と平成30年度に、市民を対象とした終活セミナーを実施し、その講義テーマのひとつとしてすみれ墓苑をPR。毎年現地での説明会も行っている。 令和2年度は11月14日に終活セミナーを行い、その後現地での見学ツアーを実施した。終活セミナーの参加者は35名、見学ツアーの参加者は12人であった。 令和3年度は、コロナ渦の状況を踏まえ、実施を見送った。
2	ご当地婚姻届で、新婚夫婦を宝塚へ	宝塚市のご当地婚姻届を作成し、この婚姻届を提出し、さらに市内に住まれる新婚夫婦に対してお祝いのプレゼントを贈る。	平成29年11月1日より配布開始。記念撮影コーナー設置済。婚姻届については前年度の実績を踏まえて印刷発注を行っている。
3	<優秀賞> ソリューションフォーカス(解決志向)で職場に笑顔と成果を増やす!	部内の有志で勉強会を作り、ソリューションフォーカスというコミュニケーションの技法を学び人間関係をよくし、職場の笑顔と成果を増やすために取り組む。	職場研修支援制度で既に各課内での研修に取り入れられる環境を築いているが、さらなる活用を図っていく。

平成29年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<最優秀賞> イートインスペース付きの カフェ兼アンテナショップ 「Fluer Coffret」の設立	西谷地方にアンテナショップとイートインスペースを併設した飲食施設を立ち上げ外貨獲得を狙う。	「宝塚市市街化調整区域における開発行為及び建築物の新築等に関する条例」が平成30年10月に施行され、「たからづか北部地域土地利用計画」は平成30年9月に正案となった。また「宝塚市北部地域振興に資する施設の建築等に関する要綱」が平成30年10月に施行され、農家レストラン等の設置要件について整理された。令和元年には切畑地区に農家レストランが1店舗開設された。
2	<優秀賞> フロア案内表示	各課ごとに番号をふり(例:総務課→3-1)その番号で案内表示を作成することによって、各課が何階にあり、その方向がわかるようにする。	本庁舎の中では、庁舎の東棟と西棟の結節点となる1階と2階のエレベーター前付近が迷いやすいと認識しており、その場所を中心に手作りで、執務室の番号表示に対応した案内表示を作成し、改善を図った。 提案のような番号表示を行うことについて検討したが、本庁舎で用いているG階という階数表示そのものがわかりにくいと考えており、現時点では、抜本的な改善とならない。一方、現在進められている新庁舎の計画でもG階という表示は使用されず、また、新庁舎の竣工時には来庁者駐車場から本庁舎への動線も大きく変わることが想定される。 そのため、新庁舎の竣工に合わせて、本庁舎の階数表示、各窓口への案内方法を見直す必要があると考えており、今後、新庁舎建設事業の進捗状況を見ながら、本・新庁舎全体を考えたサイン計画の作成をコンサル業務委託することなどを検討したいと考えている。
3	<優秀賞> 部付職員を配置する	各部において部付の係長又は一般職員を配置し、部内で柔軟に従事することを可能にする。	現状でも既に大きなイベント等を実施する際等には、部局を越えた応援体制を築けている。部内応援のための部付職員の必要性については今後とも検討していく必要がある。
4	<優秀賞> 職員相互応援体制の構築	業務の繁忙期やイベント開催時、休業等による職員の不足時に、短期間の部局を越えた職員同士の派遣を行うことで業務の効率化及びイベント等のスムーズな実施を可能にする。	上記提案3と同様、既に部局を越えた応援体制を築けている。
5	<優秀賞> 提案募集型委託事業の実施	市が行っている事務事業の内容を公表し、幅広い団体から提案を受け、サービス向上や費用削減が認められるものについて、契約を締結し業務を委託する。	市民サービスを向上させ、行政の効率化や新たな公共サービスの担い手育成による新しい公共の領域拡大を図るため、市の事務事業を対象に市民団体や民間事業者などから提案を募る提案型事業委託の仕組みの構築に向けた取り組みを進めている。
6	<市長特別賞> 毎月11日は、ほめほめデー	「ほめほめデー」を職場や家庭に広めていくことで職場環境を向上させる。	市内幼稚園・保育所(園)に「ほめほめソング」の楽譜・CDの配布することにより、一層「ほめほめデー」が身近なものになり、定着してきた。また、手話の動画配信、ふれあいダンスの制作をし、周知することで、コミュニティー施設等で「ほめほめソング」の手話を取り入れている団体もあり、少しずつ、市内全体に「ほめほめデー」や「ほめる・認める」ことの大切さを伝えることができている。 職場においても、教育委員会では毎月11日は職朝で周知し、より意識を高めるようにしている。また、庁内掲示板やPRコーナーなどで全庁に周知している。 庁内報にて職員へのさらなる周知を図る。

平成30年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<最優秀賞> 学校備品シェアリングシステム	各市立小中学校の保有備品(教材)を他校が円滑に貸借(共同利用)できる仕組みをつくる。	現時点で庁用備品及び教材用備品のエクセルデータ化が完了し、R4年度からそのデータを新財務会計システムに移して管理する予定だが、備品基準金額が変更され、備品扱いを外れる物品が多数でくるため、今後の管理方法について協議中。備品の共同利用の仕組みは管理方法を決定後検討していく。
2	<優秀賞> 庁内物品管理システムの活用	庁内で共有の物品管理システムを構築し、物品所持者は物品管理(在庫確認・整備の有無・スペース管理)をシステム内で行う。またシステムを使って物品の貸し出しも行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・長机や立て看板、ベルトパーテーションなど庁舎内で使用する物品について、システム内で予約を受け付けすることを実施している。 ・パソコン、プロジェクタ、大型ディスプレイやWEB会議用iPadについて実施済である。 ・議事録作成支援機器等について実施している。
3	<市長特別賞> 宝塚市内スポットへのAR型観光チラシの設置案	宝塚市内スポットへのAR型観光チラシを設置することで、観光に手話通訳を必要とする聴覚障害者にも楽しんでもらう。	AR型観光チラシの設置については実現に至っていないが、代替として市の施策、イベント等を動画で紹介する「知ってよ！宝塚」では、聴覚障害者向けに手話によるナレーションを取り入れている。

令和元年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	<最優秀賞> パパママ安心☆キッズスペース	窓口サービス課の待合所にキッズスペースを設け、子ども達が手持ち無沙汰になる状態を解消する。	市役所1階窓口サービス課で各種届出を行う保護者の目が届くよう、窓口の中央にキッズスペースを設置した。(令和2年1月より設置) 広さ約2.7平方メートルのクッション性のマットを敷き、その横に絵本やおもちゃ、ぬいぐるみ等を備えた本棚、利用者要望をふまえたフェンスを配置している。衛生面から、清掃用ティッシュ、消毒用アルコールも常備しており、業務終了後、除菌スプレーで消毒している。
2	<優秀賞> 消防職員による校内防災放送プロジェクト	小学校の昼休みに放送される校内放送を利用し、消防職員が防災に限らず、現場経験などを校内放送で伝える。	令和2年9月18日に第一小学校にて各教室に設置されているテレビを利用して校内放送を実施し、消防職員の災害における経験を伝えた。 今後はコロナ禍の状況を踏まえ、順次開催する予定である。
3	<優秀賞> 火葬予約システムの構築	火葬場の予約をシステム化によって一元管理することで予約受付業務の時短化、ミスを防止する。	火葬場予約システムについて、令和4年度新規実施計画として要求をしていたが、採択されなかったため令和4年度からの実施を見送る。 (令和4年1月末日時点)
4	<市長特別賞> ウィルキンソン炭酸を飲んで、ヒト・モノ・カネを集めよう	ウィルキンソン炭酸を活用して、特産品を作り、宝塚市の観光業活性化と歳入増を目指す。	宝塚発祥の「ウィルキンソン タンサン」を貴重な資源のひとつと捉え、オリジナルラッピングを施した自動販売機の設置や、歴史を紹介した看板を設置しPRしている。また、ウィルキンソンを使った「宝塚ハイボール」を開発し、宝塚の新たな特産品として浸透を図っているほか、令和元年度には、市国際観光協会からの推薦により、ウィルキンソン タンサンが「宝塚ブランド『モノ・コト・バ 宝塚』」に新たに選定された。

令和2年度企画提案

No	題名	概要	実現状況
1	＜最優秀賞＞ KDBシステムを用いた要介護認定要因疾病の分析結果による介護予防活動の提案	国保データベース(KDB)システムの医療機関受診状況のデータを用い、要介護認定の要因となる疾病の分析し、対策を提案する。	令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、自立支援型地域ケア会議の開催が現時点で2回となっており、根拠データとしての活用はできていない。国保連合会より、活用事例の提供や研修会が実施されているため、参考にしながら今後KDBシステムおよびKDB補完システムを活用していきたい。 また、KDBデータの分析結果に基づいた効果的な健康教育や保健指導について検討していく。
2	＜優秀賞＞ 『学生たからのまちづくり隊』の発足！第一弾 地域活動発信プロジェクト	現在不足している地域活動の担い手、さらに未来の地域活動の担い手として、宝塚市・地域活動に興味や愛着を持つ若い世代の創出のために、学生が市や地域活動に関わるきっかけをつくる。	大学との連携に向けて調整を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動が停滞している状況等を踏まえ、現在は調整を保留している。今後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえながら、実施内容の検討及び調整を進める。
3	＜市長特別賞＞ 医療的ケア児のための庁内連携	切れ目ない支援を目指す子ども家庭総合支援拠点(令和4年設置予定)に、新たに医療的ケア児支援の中核機関を設置し、より強化された庁内連携のもと、対象者に情報提供するなどして継続的に支援を行う。	現時点では、子ども家庭総合支援拠点は医療的ケア児の支援に係る相談先の一つとして想定しているが、継続的な支援や中核機関の設置までは検討していない。 なお、医療的ケア児の個別ケース会議の提案を行い、個別ケースから当市の支援システムや連携の課題を明確にしたいと考えている。具体的な事例について開催を予定しており、近々関係課、支援機関を召集する。
4	＜優秀賞＞ 窓口サービス課スマート未来構想	市民の利便性を向上できるスマートな窓口の実現に向けて、①受付ガイド、②データ分析による窓口混雑予測、③申請書印字システム及び④レジのキャッシュレス化を取り入れる。	旧態依然の窓口サービスのかたちから脱却し、市民のニーズに寄り添った窓口サービスの実現に向けて、事業を進めている。 ①「転入」「転居」「転出」「結婚」「出生」「離婚」「死亡」「氏名変更」の8項目について、手続きガイドを導入している。 ②データ分析を使った窓口混雑予測については、実証実験の結果、一定の予測を立てたが、コロナ禍という特殊な社会状況であり、実用には至っていない。 ③申請書印字システムについては、11月より、実証実験終了後、本稼働する。RPAとの連携については、事務改善研究会の課題のひとつとしてとらえ、実現に向けて検討している。 ④11月より、セミセルフレジを導入し、キャッシュレス決済については、12月から開始している。 (令和4年1月末日時点) 他にも、マイナンバーカードを用いた本人認証により、住民票等の証明書をインターネット上で請求できるスマート申請も、10月より開始している。 (令和4年1月末日時点)
5	＜優秀賞＞ 人件費の見える化で事業の選択と集中、業務改善を！	人件費を事業ごとあるいは費目ごとに割り振ることで事業の選択と集中を促進し、また、職員自らの事業にどのくらいの人件費を使ったかを日々管理することで、職員の人件費に対する意識を向上させ、業務改善につなげる。	令和3年5月に関係者に協力いただき、業務を実際の事務レベルまで分けた上で、人件費と連動する業務時間を見積もり、業務量の調査を試行的に実施した。
6	＜市長特別賞＞ 宝塚市の学校園で働く、看護師の応援体制の構築	学校園等で勤務してる看護師同士の連携や相談・応援体制を築くことで、看護師の負担軽減や医療的ケアが必要な子どもが安心できる環境づくりを行う。	令和3年4月人事異動において、教育部局と福祉部局間での看護師の異動があり、それぞれの経験を活かしながら業務に従事している。 医療的ケア児を考えるネットワークについては、関係部署間で引き続き協議検討しています。 なお、今年度当初から学校教育課所属の看護師が日程調整をしながら、養護学校への応援を実施している。また、研修についても西宮市で開催された研修会に学校教育課所属の看護師・養護学校の看護師が合同で参加している。 養護学校では、今年度より看護師1名増員となったが、指導に看護師の手が割られるため、学校教育課に応援を依頼し、交代で来ていただいている。また手が足りて応援の必要のないときも見に来てもらって研修の機会としている。今後は本校看護師が地域の学校の医療的ケアを学ぶ機会も設定できればと考える。また外部機関における研修会には合同で参加し学びの多いものとなったようである。